

スピーカー：大阪ガス 代表取締役副社長 CFO 坂梨 興

大阪ガスの坂梨です。

本日は、お忙しいところ、当社の 2027 年 3 月期第 1 四半期決算の説明会にご参加いただきありがとうございます。

また、平素は当社事業にご理解とご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

それではただ今より、2027 年 3 月期第 1 四半期決算について、

当社ホームページで開示しておりますプレゼンテーション資料に沿って、説明させていただきます。

まず、3 ページをご覧ください。

■ P3 決算サマリー

- ・ 3 ページは、決算サマリーです。
- ・ 上段は第 1 四半期の実績です。タイムラグ影響を含む経常利益は、502 億円となり、原油価格の上昇によるタイムラグ差損の発生等により前年同期比 90 億円の減益となりました。
- ・ 一方、タイムラグ影響を除く経常利益は 579 億円となり、当社長期契約 LNG の競争力向上等により、127 億円の増益となりました。
- ・ 下段は、直近の業績動向等を踏まえた通期見通しの修正について示しています。タイムラグ影響を含む経常利益は 1,900 億円と据え置く一方、タイムラグ影響を除く経常利益は、前回見通しから 140 億円引き上げ、1,970 億円を見込んでいます。
- ・ また、ROIC・ROE はそれぞれ 5%、8%以上となり、中期経営計画最終年度の目標水準を達成する見込みです。
- ・ なお、7 月以降の前提を、原油価格は 1 バレル当たり 80 ドル、為替は 1 ドル 160 円に見直しています。
- ・ 続いて、5 ページをご覧ください。

■ P5 中東情勢の不安定化による Daigas グループへの影響について

- ・ 5 ページは、中東情勢の不安定化による影響です。
- ・ 現時点では、LNG 調達や都市ガス・電力の供給に大きな影響はないと見込んでいます。
- ・ 当社は、ホルムズ海峡を通過する必要がある国からの長期契約による調達はなく、複数の国・地域から LNG を分散して調達しています。
- ・ また、LNG は基本的に長期契約で確保し、電力についても自社電源を活用して供給力を確保しています。
- ・ 引き続き、情勢の長期化も想定し、事業への影響を注視するとともに、必要な対応策の検討を進めてまいります。
- ・ 続いて、第 1 四半期実績についてご説明します。7 ページをご覧ください。

■ P7 27.3 期 1Q 実績 | 概要

- ・ 7 ページは、第 1 四半期決算のポイントです。
- ・ 売上高は 4,780 億円となり、前年同期と概ね同水準でした。
- ・ 経常利益は、冒頭にご説明したとおり、タイムラグ影響を含むと前年同期比 90 億円の減益となりましたが、タイムラグ影響を除くと 127 億円の増益となりました。
- ・ 親会社株主に帰属する当期純利益は、タイムラグ影響を含むと 128 億円の減益、タイムラグ影響を除くと 27 億円の増益となりました。
- ・ 増減要因について、次のページでご説明します。

■ P8 27.3 期 1Q 実績 | 経常利益 増減分析

- ・ 8 ページでは、経常利益の前年差をセグメント別に示しています。
- ・ 左側は、タイムラグ影響を含む・除くそれぞれの場合での増減についてグラフで示しています。
- ・ 右側は各セグメントの増減内訳です。
- ・ 【国内エネルギー事業】は、タイムラグ影響を含むと前年同期比 226 億円の減益となりました。これは、ガス・電力ともにタイムラグ差損が発生し 218 億円の減益となったことによるものです。一方、タイムラグ影響を除くと、ガス事業粗利が 33 億円の増益となったものの、電力事業が 64 億円の減益となり、全体では 8 億円の減益となりました。
- ・ 【海外エネルギー事業】は、米国電力事業が減益となった一方、米国・豪州での上流事業が堅調だったことから、前年同期比 2 億円の増益と、概ね前年並みとなりました。
- ・ 【ライフ&ビジネス ソリューション事業】は、都市開発事業や材料事業の増益などにより、15 億円の増益となりました。
- ・ 【その他】では、豪州 LNG カーゴの利益計上時期がずれたことで、セグメント調整額が増加していることや、米国における火力発電所の持分売却や、為替差益の発生等により、営業外収益が増加したこと等から、117 億円の増益となっています。
- ・ 各項目の詳細は、9 ページに記載していますので、後ほどご確認ください。
- ・ 続いて、通期見通しについてご説明します。11 ページをご覧ください。

■ P11 27.3 期通期見通しの修正について | 5 月 8 日公表との差異

- ・ 中東情勢の緊迫化以降の市況と、直近の業績動向を踏まえて通期見通しを修正しました。
- ・ 売上高は、原料費調整制度に基づくガス販売単価の上昇等により、前回見通しを 1,000 億円引き上げ、2 兆 1,700 億円を見込んでいます。
- ・ 経常利益は、タイムラグ影響を含むと 1,900 億円で変更ございませんが、タイムラグ影響を除くと、前回見通しを 140 億円引き上げ、1,970 億円を見込んでいます。
- ・ 親会社株主に帰属する当期純利益は、タイムラグ影響を含むと 1,450 億円で据え置く一方、タイムラグ影響を除くと前回見通しを 99 億円引き上げ、1,499 億円を見込んでいます。
- ・ 前回見通しとの差異について、次のページでご説明します。

■ P12 27.3 期通期見通し | 5 月 8 日公表との差異（経常利益）

- ・ 12 ページでは、経常利益の前回見通しとの差異をセグメント別に示しています。
- ・ 【国内エネルギー事業】では、原油価格・為替の上昇に伴うタイムラグ差損を見込む一方、タイムラグ影響を除くと、当社長期契約 LNG の競争力向上や電力市場価格の上昇等により、ガス事業で 50 億円、電力事業で 30 億円、それぞれ見通しを上方修正しています。
- ・ 【海外エネルギー事業】では、米国・豪州での上流事業の増益などにより見通しを 35 億円上方修正しています。
- ・ 【その他】は、第 1 四半期実績を踏まえて、見通しを 25 億円上方修正しています。

■ P13 27.3 期通期見通し | 前期実績との差異

- ・ 13 ページでは、修正後の通期見通しを前期実績と比較しています。
- ・ 売上高は前期比 1,396 億円増の、2 兆 1,700 億円を見込んでいます。
- ・ 経常利益は、タイムラグ差損の発生により、タイムラグ影響を含むと前期比 145 億円の減益見通しですが、タイムラグ影響を除くと、前期比 16 億円の増益となる 1,970 億円を見込んでいます。
- ・ 増減要因について、次のページでご説明します。

■ P14 27.3 期通期見通し | 前期実績との差異（経常利益）

- ・ 14 ページでは経常利益の前期からの増減要因をセグメント別に示しています。
- ・ 左側は、タイムラグ影響を含む・除くそれぞれの場合での増減をグラフで示しています。
- ・ 右側は各セグメントの増減内訳です。
- ・ 【国内エネルギー事業】は、タイムラグ影響を含むと、前期比 224 億円の減益、タイムラグ影響を除くと 63 億円の減益を見込んでいます。
- ・ 一方、【海外エネルギー事業】は 6 億円の増益、【ライフ&ビジネス ソリューション事業】は 30 億円の増益、【その他】はセグメント調整額及び営業外損益で 42 億円の増益を見込んでいます。
- ・ 各項目の詳細は、15 ページに記載していますので、後ほどご確認ください。

■ P16 成長投資の実績と見通し

- ・ 16 ページは、成長投資の実績と見通しです。
- ・ 左側は成長投資です。
- ・ 第 1 四半期の成長投資実績は 554 億円となりました。
- ・ 国内エネルギー事業では発電所、海外エネルギー事業では米国上流事業、ライフ&ビジネス ソリューション事業では都市開発事業等を中心に投資を行っています。
- ・ 右側は財務健全性指標です。
- ・ 第 1 四半期末の自己資本比率は 55.0%、D/E 比率は 0.52 倍です。
- ・ 中期経営計画で示した「自己資本比率 45%以上、D/E 比率 0.8 倍以下」の水準を確保しています。
- ・ 今後も財務健全性を維持しながら、持続的な成長と中長期的な企業価値向上に向けた成長投資を進めてまいります。

以降は説明を割愛いたしますが、

19 ページからは、主な収支変動要因や BS の状況などの補足情報、

24 ページからは、数値増減の詳細について記載しておりますので、ご参考ください。

以上で、私からの説明を終わります。

注意事項：

本書に記載される情報は、将来の業績に関する見通し、計画、戦略などが含まれており、これらは現在入手可能な情報から得られた当社グループの判断に基づいております。実際の業績は、さまざまな重要な要素により、これら業績の見通しとは大きく異なる結果となりうることをご承知おきください。実際の業績に影響を与える重要な要素には、日本経済の動向、急激な為替相場・原油価格の変動並びに天候の異変等があります。